

日本の各種統計を調べる



参考図書 (reference book) とは

特定の知識や情報について調べることができるものを参考図書とよんでいます。小説などとは違い、必要なところだけ読めば用が足りる、たとえば、事典・辞典・図鑑・年鑑・便覧・白書などです。

『日本国勢^{ずえ}図会：日本がわかるデータブック』

公益財団法人 矢野恒太記念会 1927年～

昭和2年(1927)に創刊され、現在は毎年刊行されています。日本の社会や経済の動向を明らかにすべく、幅広い分野の最新データが総合的に収集された統計書です。官公庁や各業界団体などが公表した統計から、重要なものを精選して紹介しています。解説やトピックスを加えることで、日本の情勢がより分かりやすくなるよう工夫されているのも特徴です。

学校の授業や入試問題、講演会、研修などに活用されることも多く、統計書の定番ともいえます。各統計には、その出典が書いてあるので、もっと詳しい資料が欲しいときの参考にもなります。

『日本長期統計総覧』

(財)日本統計協会 2006年 全5巻

明治元年(1868)から現代に至るまでのデータを、人口、経済、社会、文化などの分野ごとに、体系的にまとめています。章ごとに各分野の統計に関する解説もあります。一部は総務省統計局HPの「日本の長期統計系列」でご覧いただけます。

『日本統計年鑑：JAPAN STATISTICAL YEARBOOK』

総務庁統計局 1949年～

『日本帝国統計年鑑』(1882～)の流れをくみ、昭和24年(1949)から毎年刊行されています。日本の国土、人口、経済、社会、文化など広範な分野の基本データを、網羅的・体系的に収録しています。統計表にはすべて英文も併記されています。また、総務省統計局HPでも公開されています。本書から基本的なものを取り出しコンパクトに編集された『日本の統計』(毎年刊行)もあります。

『数字でみる日本の100年：日本国勢図会長期統計版』

公益財団法人 矢野恒太記念会 2020年

項目によっては明治期からのデータもあり、長期的な変遷の調査に活用できます。本館では、第2版(1986)から第7版(2020)を所蔵しています。

『日本国勢図会』で調べてみました！

問① 2019年時点で全国に設置されている郵便ポストの数を知りたい。また、数の増減についても確認したい。

答 2019年(会計年度末現在)は179,129本、前年の2018年は180,774本でした。1980年以降、10年おきの数値も載っており、それぞれ、1980年は142,801本、1990年は160,952本、2000年は177,217本、2010年は186,753本です。
(「2021/22」版 索引【郵便】)

問② 2019年時点でよその家庭が、いくらくらい貯金や借金があるのか、気になる。

答 二人以上世帯という条件つきで、2019年の統計が載っています。(出典は総務省統計局「家計調査(貯蓄・負債編)」(2019年版))
それによると、貯蓄現在高平均は、1,755万円でした。また、負債現在高平均は570万円、うち住宅・土地のための負債が518万円となっています。
(「2021/22」版 索引【貯蓄現在高(家計)】)

調べてみよう！

- * 各都道府県の面積は？
- * 日本人が一番よく食べる肉はどれ？ ① 牛 ② 豚 ③ 鶏
- * グレープフルーツの主な輸入先はどの国？
- * 近年の訪日外国人の数はどうなっているの？

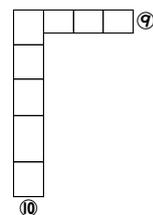
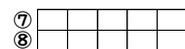
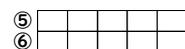
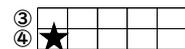
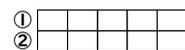
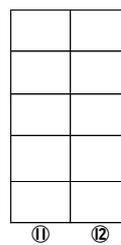
まずは、紹介されている参考図書を調べてみましょう！
上記の参考図書はこちら→

図書館の本は、本の背に内容がわかるよう分類ラベルが貼ってあります。

日本の統計のことは【351】を探してみてください。
また、世界の統計については【3509】に『世界国勢図会』や『世界統計年鑑』などがあります。



中央図書館3階



わからないことがあれば、何でもお気軽に図書館員におたずねください。